

## 【エントリー情報】

自治体名：広島県広島市

学校名：広島市立吉島東小学校

ご記入者：大下 将司

ご役職：教諭

メールアドレス：

電話番号：

## 【設問】

### ① 貴自治体・貴校で目指している目標（ビジョン）・目標に至った背景・想いを教えてください。

**（1,500文字以内）※可能な限り自治体や学校全体の目標をご記入ください。**

本校の教育目標は「豊かに感じ、深く考え、やりぬくたくましい子を育てる」です。また目指す子ども像を「自他を思いやる子ども(豊かな心情)」「深く考え学び合う子ども(確かな学力)」「ねばり強くやりぬく子ども(強い意志)」「体力のある、元気な子ども(たくましい体力)」と掲げています。

#### ① 校内研究からのアプローチ

今年度は、「自分の考えを伝え合い、認め合う子どもの育成～主体的に学び表現する。探究的な学習を通して～」という研究主題で、地域の題材を中心とした生活科・総合的な学習の時間の授業研究に取り組んでいます。この研究主題を設定した理由は、ソサエティ5.0を始めとする時代的な背景により、身の回りで起こる様々な問題に対処し、多様な人々と協力して解決策を見つける力が必要だからです。また、現在の学校の課題として子どもたちの地域への関心が薄れていることや、自己有用感・学習意欲の低下が挙げられます。これらの課題から、地域の「人」と関わることを通じて、地域で自分の考えや行動が誰かの役に立つ経験や、地域の課題解決を行う過程を楽しむ体験ができるようなカリキュラムを組むことで、児童の社会参画意識や学習への意欲の向上が期待できると考えています。さらに、この学習のベースとしてICTの活用を想定しています。ICTの日常的な自由な使用を実現することで、探究プロセスの充実を目指しています。つまり、学習意欲を高めながら児童が自らの学びや意見を表現する力を身につけていくことが、ICTによって可能だと考えています。このようなICTを活用した地域を題材とする探究活動をデザインする研修を通じて、学校教育目標の実現に向けた授業改善を行っています。

#### ② 働き方改革によるアプローチ

教職員の専門性とスキルの向上も、学校教育目標の達成には欠かせない要素です。前述の校内研修を含め、子どもたちに最適な教育を提供するには時間が必要です。そのため、教員が地域の方々と関わる時間や、ICT活用スキルを磨くための時間的、精神的な「ゆとり」を生み出すことが必要でした。そこで、働き方改革の推進を図っています。目指す子ども像にあるような資質は、教職員自身が率先して示すべきものです。教員が直面する「働き方」という教育課題に対処し、教員自身が働き方を探究できるように、日々の対話を重視し、学校運営を推進しています。このようにして生み出された「時間のゆとり」と

「心のゆとり」は、蓄積され、最終的に子どもたちに還元されるものであると考えています。

本校の教育目標の達成に向けた取り組みの中では、ICT は日常で自然に利用されるものという認識ですが、ICT がなければ実現できなかったことを中心に紹介していきたいと考えています。

現在の本校の学校の教育目標の達成に向けての取り組みの中では、ICT は日常で自然に使うものという認識ですが、ICT がなければ実現しなかったことを中心に紹介していきたいと思ひます。

**② 目標（ビジョン）に向けた具体的な個人のお取り組み・学校全体でのお取り組み、学校の枠を超えて市や他校へ広がったお取り組みや、その中で発生した課題や苦勞を教えてください。（1,500文字以内）**

○ICT の日常利用のための校内システムの構築

本市はタブレット導入に遅れがあり、コロナ禍での急速な ICT 活用の必要性を迫られた時期を過ぎからの導入となりました。市全体が端末の持ち帰りを行わない方針だったため、教職員の中には「タブレットを使わなければならないのか」「使い方がわからず紙の方が使いやすい」といった意見の方が大多数で、ICT 活用の研修に対するモチベーションが低い状態でした。しかし、「授業で使ってみたい」と前向きな人々を見つけ、彼らとの会話を通じて利用してくださる先生を増やしていきました。新しいソフトが増えるたびに ICT 活用に関する校内全体の研修も必要でしたが、多忙なかでの研修を行うのはなかなか時間を取れない実態もありました。そこで「働き方改革」として、日々の連絡を Google Classroom で行い、書類をクラウドに移行する取り組みを考えました。そこには大きなハードルもありましたが、対話を重ねて理解を深め、実現することができました。その結果、ミライシードの使い方の動画や Web ページを Classroom にアップロードするなど、活用例を共有することが容易になりました。ICT 活用の集合研修は減少し、困ったときはすぐに知識のある人に質問する雰囲気も根づきました。また、教職員が日常業務で ICT を使うようになり、その慣れから、子どもたちも授業で自由に ICT を活用するようになりました。教職員の日常的な利用の仕組みづくりが、子どもたちの ICT 活用能力向上につながりました。この変革には、教職員の意見に寄り添う対話が不可欠であることが明らかになりました。

○地域題材を活用したリアルな探究学習

生活科や総合的な学習のカリキュラムを見直し、全学年で地域の題材を取り入れることにしました。これにより、児童は自ら行動し、情報を収集し、ICT を駆使して表現する力を身につけました。インターネットでは得られない情報を様々な方法で捉える姿勢を育てることができました。地域の人々との交流を通じて、学校外での大人とのコミュニケーションを取り、課題に対して自分の思いをはせながら活動できるようになりました。GIGA 端末がなければ、このような記録、分析、表現は不可能であり、準備と作業にも膨大な時間がかかっていたでしょう。また、地域との連携を円滑に進めるためには、教員の時間確保が必須でした。教員の働き方改革と子どもたちの ICT 活用を一体として取り組んだことによる成果だと捉えています。

③ (3-1) ICT を活用することで、先生のご指導や働き方、児童・生徒の学び方や学習への態度、学習成果などにどのような変化があったか、またこれらの変化をどのように評価されているか教えてください。(2,000文字以内)

○校務文書のクラウド移行と授業への活用の広がり

教職員の働き方改革への一歩は、業務のデジタル化から始まりました。校務文書をクラウドへ移行することで、場所を選ばずに必要な書類にアクセスし、編集ができるようになりました。これにより、資料の印刷や書類の整理といった時間を要する作業を減らし、紛失や検索の手間を省くことにもつながりました。会議の準備や後片付けで慌ただしい光景は見られなくなり、情報の伝達もスムーズに、そして心にゆとりをもって行うことができるようになりました。ちょっとした役立つ情報も、共有しやすくなり、研修のあり方についても改善しようとする動きが見られています。

しかし、多くの教職員が ICT の使い方に不安を感じていたため、慣れるまでには時間が必要でした。慣れるまで研修をすれば良いのかもしれませんが、現場に何度も何度も研修する時間的な余裕はありませんでした。そのため、実際の業務の中で生じた疑問に一つひとつ向き合い、同僚が互いにサポートし合う関係を育てていくことが重要でした。使おうとされている先生と得意な先生をつなぐために、「あの先生も使われていましたよ」と伝えて、お互いに共有するように促したり、操作のヒントとなる動画をクラスルームに載せたりするなど、実践しながら学んでいただき、多くの方が使いこなせるようになりました。そして、クラウドベースでの作業が自然と校内の日常になりました。

このような取り組みの結果として、教職員全員に ICT 活用が広がり、授業での活用も自然と行われるようになりました。教員一人ひとりが独自のアイデアで、それぞれの授業に ICT を取り入れる姿が見られるようになり、授業の質の向上にもつながっています。また、日常業務にクラウドが溶け込むと、Google カレンダーや保護者連絡のデジタル化もスムーズに進められるようになり、ありとあらゆるデジタル化への心のハードルも低くなったと感じています。

○子どもたちが自ら ICT 活用をしたいと思える総合的な学習の時間

総合的な学習の時間では、教師からのワークシートの提供だけでなく、子どもたちの声に耳を傾け、彼らの要望に応じて場を設定する機会も増えました。子どもたち自身が課題を明確に設定し、解決に向けて友達やクラス全員と一緒に考えるなかで、自由にメモを共有したり、スライドを使って考えを形にしたりする姿が見られるようになりました。

子どもたちが、これまでの学びで触れたツールを自分たちで選んで、話し合いの中で活用する様子は、まさに学習の蓄積によるものです。各教科で培った知識と手段を総合的な学習の時間で生かし、ICT の活用が自然と進んでいるように感じます。もちろん、ホワイトボードが適している時にはそれを使い、タブレットが便利なきときには積極的に取り入れるなど、子どもたちに選択肢を与えています。子どもたちは、その選択を通じて自分で適切な方法を判断しています。

また、情報収集のためにインタビューをしたり、伝えたいことを表現したりする際には、動画や写真をしっかりと保存していくことで、番組を制作したり、CM を作ったりする活動が可能になりました。それも少人数のグループで行うことが多いため、子どもたちが自分たちの思いを反映させるために活発な話し合いをすること

ができました。子どもたちは、自分のしたいことが実現でき、見てくれた人の感想をもらうことで、自信になったり、学習する意欲につながったりしている様子です。

**(3-2)ICT 活用による成果について、定量的なデータでお示し可能なデータがあれば、教えてください。(1,500 文字以内文字以内) ※本設問のみ任意回答**

○働き方改革について

担任 17 人の在校等時間の変化

月	令和 4 年度		令和 5 年度		在校等時間平均 前年度比
	在校等時間合計	在校等時間平均	在校等時間合計	在校等時間平均	
4月	1068時間54分	62時間52分	930時間37分	54時間45分	▼8時間07分
5月	897時間47分	52時間48分	753時間54分	44時間20分	▼8時間26分
6月	1072時間39分	63時間05分	907時間09分	53時間21分	▼9時間44分
7月	676時間17分	39時間49分	574時間45分	33時間49分	▼6時間00分
8月	271時間09分	15時間17分	218時間54分	12時間53分	▼2時間27分
9月	892時間05分	52時間29分	771時間54分	45時間22分	▼7時間07分
10月	795時間27分	46時間47分	896時間31分	52時間44分	△5時間57分
11月	838時間10分	49時間18分	702時間17分	41時間19分	▼7時間59分
12月	654時間42分	38時間31分	930時間37分	38時間09分	▼0時間22分
1月	573時間16分	33時間43分			
2月	855時間05分	50時間18分			
3月	837時間15分	49時間15分			

校務のクラウド化に昨年度 10 月頃から少しずつ取り組んだ結果、4 月から昨年度比を下回っています。10 月についてはコロナ対応ではない体育発表会や行事などがあり、時間は増加しています。

しかし、働いているうえで実感できるほど、業務に時間の余裕ができ、職員同士の会話が増えています。

④ お取り組みの中でのミライシードの活用画面・活用機能お取り組みの中でミライシードが役立つ場面・活用頂いたアプリ/機能を教えてください。

※活用エピソードが複数ございましたら、文字数制限内でご記入ください。1つのエピソードに絞る必要はございません。(2,000文字以内)

○働き方改革としてのミライシード活用

●宿題のデジタル化

8月までは、宿題として連絡帳に日記を書いたり、時間割を記入したりしていました。しかし、9月から連絡帳の使用をやめ、オクリンクを使って日記に代わる宿題を出すようになりました。また、時間割の写真を自分で撮影し、オクリンクにアップロードすることで、連絡帳に記録する代わりにしています。

オクリンクを使用しての日記宿題は、これまでの方法では不可能だった活動を可能にしました。子どもたちは資料に対する自分の考えや感想をまとめ、要約する力や、重要なキーワードを見つける力を身につけることができます。

具体的には、オクリンクに「NHK for School」の動画を添付し、視聴後に200文字程度の感想や学んだことを書く課題です。これにより、動画視聴に使っていた授業時間をほかの学習活動にあてる余裕ができ、子どもたちが繰り返し動画を視聴し、理解を深め、知識をアウトプットすることで学びが深まります。

さらに、宿題の提出状況は一覧で簡単に確認でき、スタンプ機能を使ったフィードバックが可能です。何より、友達の感想を読んで、それがクラス内での会話のきっかけになることがあります。オクリンクを通じて友達とのつながりを深め、学級の雰囲気をよくすることができます。このように、オクリンクは授業だけでなく学級経営にも積極的に役立っています。

 総合で使えそうな情報はどれですか？100文字以上で。

動画を作るときには、作る動画の目的にあった情報を集めて動画を作ることがわかりました。動画を作るときにただ必要なと思った情報だけでなく目的にあった情報は大切なんだなと思いました。また、見る人が分かりやすいように工夫することも大切だということがわかりました。

「しまった！情報活用スキル」を見ての感想

 200文字以内で徳川家康について感想を書きましょう。

徳川家康は、1600年に起こった石田三成との関ヶ原の戦いに勝ち、勢力を高め、江戸幕府を開いたことがわかりました。小さい頃から、今川義元や織田信長の人質として生きていたのにすごいなと思いました。そして、264年間も続いた江戸幕府を開いて戦乱の世をおさめたこともわかりました。また、大阪の陣では豊臣家を滅ぼして、江戸の町を盛り上げていくのがすごいなと思いました。だから、江戸幕府は264年も続いていたのかなと思いました。

「歴史にドキリ」を見ての感想

 200文字で大切なポイントをまとめましょう

ロンダートはまず始めに両手をあげてホップをしてその後、片手を下ろしながら足を振り上げて両手を同時におしはなして両足で着地することがわかりました。途中、体をひねりながら回ることが大切だということもわかりました。また、両足がちゃんと同時にマットにつかないといけないので難しそうだなと思いました。特に足を振り上げながらするのが特に難しそうでした。ただたくさんポイントがわかったのでそのポイントが意識できるようにしたいです。

「はりきり体育ノ介」を見てまとめる

 大谷翔平からのメッセージを聞いて自分の生活に生かせることを100文字以内で書きましょう。

大谷選手の話聞いて、「挑戦は、楽しんで」と言っていたので、何かに挑戦する時には楽しんですることが大切なんだなとわかりました。自分も何かを目標にしているときに楽しんですることを意識していきたいなと思いました。

(YouTube) 大谷翔平のメッセージを聞いての感想

### ・授業時間を確保するための活用

これまでは校外学習や出前授業などでお世話になった方に手紙を書くという時間を作ったり、卒業文集を書くために何を題材にするのか考える時間が必要になったりということがありました。最近では授業の余剰時間を削減する取り組みの影響もあり、授業時間はしっかり確保したいところです。しかし授業時間外の時間だけでは仕上がることなく、仕方なく授業時間を使わないといけないこともありました。そこで、宿題という形で、事前に手紙の原稿、卒業文集の題材をオクリンク内に書き起こしておくことで、そのような時間を作る必要がなくなりました。また、子どもたちが何を書こうとしているのかも事前に確認ができるため、効率的に準備をすることができました。さらに、手紙については、紙に書く代わりにデザインソフトを使うことで、見応えのある手紙を作ることができました。

先生へ（100文字）

社会や算数、道徳まで勉強を教えてくださいありがとうございました。社会も算数もわからなかったところがあるようになるほどわかりやすい授業でした。たくさんアドバイスなどしてくれて嬉しかったです。先生になれるようにこれからも頑張ってください。

卒業文集に書きたい内容を200文字程度で書いてみましょう。

6年間の小学校生活で学んだことや小学校で学んだ勉強を次にどう活かしていきたいかを書きたいです。特に、人のことを考えて行動したり思いやりの心をもって誰かを助けたりしたいことなどを書きたいです。自分にとって大切だと思うようなことを書けたらいいなと思います。また、この6年間お世話になった先生たちや家族に感謝の気持ちをこめて卒業文書を書きたいです。野外活動、修学旅行などたくさんの思い出もしっかり書きたいです。

教育実習生への手紙

卒業文集に書きたいこと

### ・ワークシートのデジタル化による教材の使い回しと蓄積

道徳などのワークシートをデジタル化し、成績カルテを使って成績処理をしています。

印刷も必要なくなり、準備を授業間の休憩などにすることも可能になりました。学年の先生と共有したり、昨年度の作ったものを再利用したりすることもできるようになり、とてもスムーズに授業準備ができるようになりました。また教科担任制のため1回の準備で複数の授業で活用することも可能になりました。

なぜマザー＝テレサは死にゆく人々の手を握り続けたのでしょうか。

マザーは、人間にとって最も悲しいことは誰からも相手にされないことだと言っていたので、その人たちにも安心してほしかった。

自分ができる…

私ができると思ったことは、普通のこの生活でも友達とかに思いやりの心を持つということと、ペットとかを買うときもちゃんと命を大切に愛や思いやりを持って世話をするという事です。そして、何が起ころうとも他人のことを大切にしたいと思いました。

道徳：「マザー＝テレサ」ワークシート発問2 発問3 をムーブノートで回収

### ○授業での効果的な活用（児童から出た活用アイデア）

・総合的な学習の時間内での意見交流・集約

#### ①課題設定

みんなの考えを出し合ってどんな思いが多いか知りたいときにオクリンクで意見を出し合いました。

そこに出てきた言葉を全員が見て課題設定を行いました。

## ②情報収集

グループごとに活動している際、クラスの意見を聞いて回るのは大変であるが、オクリンクで出してくださいとひと言伝えるだけで、瞬時に意見を集めることができました。

→あらかじめ想定していたものでなくても授業の流れの中で、子どもの考えをすぐに反映できました。そのため、発問などもその場で追加・修正できるので、プリントと比べて格段に児童に合わせて授業を展開することができています。

<p>吉島東のみんなが安心して過ごせればいい。 もっと吉島東全体がいろんな人達と仲良くな ったらいい。</p>	<p>有名になって、活気があってほしい。</p>
<p>23.</p>	<p>24.</p>
<ul style="list-style-type: none"><li>・挨拶をする人が増える</li><li>・ポイ捨てをする人が減る</li><li>・この吉島東にいて心地がいいと思えるか。</li><li>・地域の人同士の仲が良くなっている。</li><li>・潰れてしまったお店が復活する。(商店街の)</li><li>・落書きがなくなる。</li><li>・近所迷惑になるような人が少なくなる。</li><li>・活気を復活させるそして、未来に繋げる</li></ul>	<p>活気のあるいい街になってほしい。豊かな親 切な吉島東に移住してよかったと思う人がい たらいいなと思います。地域が有名！</p>

## ③まとめ・表現

提出ボックスを分けながら、グループの制作物について感想を送り合いました。

### ・体育の振り返り

体育の振り返りをスロー動画つきでオクリンクに提出するようにしました。これまでフォームで行っていましたが、児童はオクリンクのカードに貼り付けた方が自分の動画を見ながら振り返りを行えるので操作が楽だと言っていたためこの形で行いました。動画の長さによっては送れない時もありますが、評価をするときにカルテで見られるので、効率的に成績処理ができます。